

収入向上・女性自立

8月末、事業が終了しました

ービラーンの村アムグオのナバルタビ振興事業ー

これまでも随時ご報告のように、本事業は、事業開始時の2017年4月の時点では、アムグオの「ビラーン・クリスチャン学校」敷地内にある「織の家」を拠点とするナバルタビプロダクション/NTP（共同代表：ノノバート校長と元奨学生スヌーリア）が事業主体となっていました。担当のスヌーリアは、居住地ボロルサロの村会議員に再選され、予定していた「織の家」修理や、村の女性たちの組織化が進まず、助成機関WE21ジャパンみどりの了承をいただいて事業対象を変更しました。農業専攻の元奨学生ボニファシオの仲介による新規対象は、同じアムグオにあるビラーンの伝統文化振興組織（代表ジェオさん）です。事業期間も2018年1ー8月に変更し、織りや縫製研修が終了、ナバルタビ織も3ロールが完成しました。（9月以降も継続支援が決まり、アバカ苗など準備中です）

約半年の研修で完成したナバルタビ織3ロール（各4m）

真ん中の1本を当団体で購入し、その半分を助成機関にご支援の成果として贈呈しました。



当初計画にあった「アバカ苗の育成」予算を、マロンなどの民族衣装生地の手織研修経費に変更し、織機と糸を購入させていただきました。

ナバルタビ織より技能習得が容易で、多様な使い方があるマロンの需要は堅調で、より多くの女性の収入向上につながると期待しています。



アガさん 8月訪問報告から

伝統継承と収入向上を目指して、アムグオのナバルタビ織と手織り振興のため、女性たちの組織化を進めたリーダーのジェオさんは、カレッジの地域開発科卒の31歳。当初4人のナバルタビ織手と2名のマロン織手から組織化を始めて、政府機関への登録を済ませ、国道沿いのアウトレットへの卸やマニラからの買付人への売り渡しのルートもできている。

作業や展示用建物も、ナバルタビ用とマロン用に分かれていて、ナバルタビの場合は、4人の織手が2か月で4m織り、1万ペソで売れた場合、2500ペソずつ分けて、うち10%はナバルタビ基金に積み立てる仕組みを作っている。



左から：ボニファシオ、ドゥロさんの幼なじみ（100歳の織手）、ドゥロさん（最高の織手・研修講師）、組織のリーダーで、ドゥロさんの孫のジェオさん

COWHEDを訪ねてー 8月の訪問報告からー



左から：アガ、PPF/ビビアン、アンナ、マネージャー・ジェナリン、元マネージャー・ジェマ、会計マイダの皆さん

アガさんの報告によると、マネージャーの一人体制は厳しいという前号でのネニータ組合長の懸念は当たらない、複数いるスタッフの働き方次第という印象を受けたそうです。また、収益面については、相変わらず価格競争は激しく、薄利多売の状況は改善されていないようだったということでした。

COWHED 製品の紹介



左上：名刺・カード入れ（¥600）

右上：2辺ファスナー小銭入れ（¥400）

中央：ミニ小銭入れ（¥300）

下：ミニペンケース（¥400）

COWHED フェイスブック情報から

多忙なジェナリンさんからの現況報告は今回も遅れているため、フェイスブックでCOWHEDの活動を確認しました。7月下旬にミスユニバース・フィリピン代表が店舗を訪れ、ビーズ細工等体験している写真（右）がありました。レイクセブ町に複数あるハンディクラフト組合の中でもCOWHEDは、チボリの伝統技術継承活動の面で別格のようで、マニラなどからの要人来訪者も多いようです。



アガさん帰国時に仕入れたティナラク小物です。イベントでの購入が難しい会員で、ご希望の方いらっしゃいましたら、事務局までご連絡下さい。